

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100204		
法人名	(有)ゆたか		
事業所名	グループホームゆたかの郷		
所在地	宮崎市高岡町小山田65番地4		
自己評価作成日	令和5年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和5年10月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、一人ひとりの話を傾聴し日々の生活や健康状態をしり病気・趣味・好きな物・人間関係・人的環境・社会的な関わりなど情報収集を行い職員間で共有ができる。ご利用者様のQOL(その人らしさ、生活の質)を守るため、その方の尊厳を意識してゆたかの郷でゆつくりと穏やかに、その人らしく生活をしていただけるように、チームでケアを行い支援をしている。  
 コロナウイルスが流行し、外出や行事の機会が減った為に毎月、職員がお楽しみ会で踊りを踊ったりして楽しんでいただいている。  
 本人や家族の希望はできる限り、取り入れ買い物などの外出支援を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

系列に有料老人ホーム、ケアホーム、訪問介護事業所があり、それぞれの機能を活かした協力体制を取りながら支援に努めている。小学校や郵便局がすぐ近くにあることで、地域の方たちにも馴染みがあり、ホームの行事への協力や地域のお祭りへの参加など双方で積み上げてきた良好な関係性がみられている。入居者支援においては、「その人らしさ」や「出来る事」に着目した日々の生活を大切にしている。人との接触が難しい状況の中であっても、ホーム内の飾りつけに工夫をこらしたり、毎月の「お楽しみ会」に職員の踊りや歌などを披露し、入居者の笑顔に繋がっている。「心ゆたかに」過ごして頂くことを目指した支援に職員は協力して取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティングでスタッフ全員で理念を輪唱、意識してケアの実践を行っている。	理念は年度始めに職員と話し合い、これまでの理念を継続して掲げていく事とした。また、具体的な行動規範も作られており、職員の見やすい場所に掲示し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスが第五類となりできることは増えてきた。地域サロンへの参加などコロナウイルス感染症の影響にて実施困難な状況となっている。4年ぶりに地域の夏祭りが開催され施設の前に待機所が設置され利用者の方々と一緒に神輿を見学することができた。	ホームで行う行事(敬老会、ばら祭り)会場を近くの小学校の体育館で行っている。また、ホーム前庭が地域の夏祭りの待機所に設置されたり、花壇の手入れを地域の人と一緒にするなど、地域の中に根付いた交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流の際に、地域の方々と利用者が直接交流を図り、認知症への理解をして頂くようにしている。施設内行事、(バラ祭り、敬老会など)の際は地域の方もお招きしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月より開催を再開している。運営推進会議で頂いた意見・要望は謙虚に受け止め、スタッフと話し合い、早急に反映しサービスの向上に努めている。	今年度、地域包括支援センター職員、公民館副館長、民生委員、小学校校長の参加で対面での会議が行われた。資料を基にした現況報告を主とした意見交換が行われた。しかし、家族の参加はなく、会議内容の報告も十分にされていない。	家族に運営推進会議へ参加して頂きホームでの生活の様子や課題についての理解に繋げ、さらに家族の視点や思いを取り入れることでより良いサービスにつなげていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターを窓口、後見人の相談を行っている。介護保険関係は、市役所の担当課へ連絡を行い、内容の確認を行っている。	管理者は市が行う研修へのオンライン参加や各種書類の記入方法の問い合わせなどを行っている。その都度、市の担当者からは丁寧に対応して頂けており、関係性の構築に繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて、身体拘束を行わない介護を確認している。毎月の職員会議において身体拘束廃止委員会より事例に基づいた話しがあり職員は身体拘束をしないケアを意識している。	各事業所代表で構成される身体拘束廃止委員会が設置され、事例に基づいた話し合いがなされている。それらをもとに委員会のリーダーから職員への研修が行われている。スピーチロックについても日常のケアの中で意識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の言葉や気持ち、尊厳について意識して利用者の意向を尊重し、虐待と感じられたり、見られたりするようなケアを行わないように、スタッフ同士で意識し声掛けを行い対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域での研修や、リモートでの勉強会に参加できるように支援している。 コロナウイルスが第五類になり徐々に研修が増えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、契約書に沿って具体的に説明を行い、理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に頂いたご意見や、地域交流の際にスタッフが参加し、意見交換を行い運営に反映している。現状、コロナウイルス感染症の影響にて面会の制限を行っている。	面会の時間制限を継続しており、家族からの意見聴取の機会は少ないが、行事の参加時や介護計画作成時に意見を頂いている。個別の要望に関しては介護計画に反映させ、運営に関する事は職員間で話し合い対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会への参加を促している。また、個人面談を行い、意見や提案を行っている。会議にて出た要望や意見は、スタッフへ周知し、サービスの向上に繋げている。	入居者支援に関してや勤務時間と人員配置の件など職員は業務の中で気づいた事を意見や提案としてあげており、管理者はそのつど対応している。また、理事長と管理者による個別面談を年2回行ない、意見や要望の聴取を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に面談を行い、キャリアパスなどの説明を行い、スタッフの意識向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課表を活用し、改善点を把握し、弱点をなくせるように育成を行っている。 状況によって、事業所内で移動しOJTの機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での勉強会や研修会へ参加し、他施設との情報交換を実施。コロナウイルスが第五類になり徐々に研修は増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に必ず事前調査を行い、本人やケアマネなどから情報を収集している。ゆっくりと話を聞ける機会や環境を設けて、信頼関係を築けるように心掛けている。利用者の生活歴や好きなことを意識して話しを傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接の際に、ご家族からの意向を傾聴し、記録を行う。大切なことは、その都度、話し合いの場を設けて記録を残している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集をしっかりと行い、スタッフ同士での情報を共有し、ご家族がいつでも気兼ねなく話のできる環境を整える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のその時々々の不安を解消し、施設での環境にて落ち着いた生活を継続していただける様、チームケアで対応を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じて、施設行事への参加や、外出支援の声掛けを行い、穏やかに生活が送れるように環境整備を行う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の会いたい方や、本人の知人(地域の方)などに声掛けを行い、食事会やお茶会への参加や地域サロンへの参加を行っている。 現状、コロナウイルス感染症の影響にて困難な状況である。	コロナ禍で積極的な外出や交流が困難であったが、なじみの美容院に家族同伴で出かけている。これまで買物に行っていたお店に職員と行くなど、可能な範囲での支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず、スタッフが一人ひとりの利用者の人的環境(関係)を把握し、交流が円滑に進むように支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状況に応じたサービスや医療機関との連携を図り、その人にとって、より良い支援や助言を行う。グループホームから有料老人ホーム(関連施設)へ移動しても、本人が不安にならないよう定期的に顔なじみの職員が訪問したり家族と連絡を取るようになっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活でのコミュニケーションやカンファレンスにて意向を確認し、ご本人とご家族を交えての話し合いの場を設ける。毎月、勉強会で一人ひとりのケアについて全員で話し合っている。	日頃の入居者の話した言葉をそのまま記録をするようにし、その中から醸し出される本人の思いを職員全員で検討するようになっている。自宅への帰宅欲求の強い入居者にも丁寧に向き合うようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や紹介機関からの情報収集、状況の把握を行い、サービス計画を作成し、モニタリングをしっかりと行い、利用者の精神面や身体面の変化に合わせて、環境の整備を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間でのミーティングや情報の共有を行い、その都度、外出支援やドライブ等の個別の支援を行っている。利用者の方々との関わりの中で気づきなどあった際は、その都度、記録を行い、反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を職員間で見直し、勉強会にて検討し実践できる計画を作成している。職員全員で介護計画は共有できているので記録にしっかりと反映させることで情報収集ができ、そのひとらしさを活かした介護ができるよう実践している。	その人らしさを活かし、「できる事」に着目した介護計画作成を行っている。事業所内の理学療法士、言語聴覚士からの視点を活かした意見や指導を介護計画に反映させている。嚥下状態が改善につながった事例もあり、チームとしての取り組みがみられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をしっかりと行い、申し送り簿を活用し、日々のミーティングにて支援の検討を行い、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康状態やADLの把握を行い、福祉用具の見直し、訪問診療の活用などサービスの多機能の支援も伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流の場を設け社会との関わりを持ち支援を行い、サロンや行事に参加し、また施設への招待を行い、交流を行っている。 現状、コロナウイルス感染症の影響にて困難な状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態・状況により、主治医の検討を家族と共に決めている。状況に応じて専門医への受診を行っている。	入居時に希望するかかりつけ医の確認を行なっている。往診対応が可能であり、協力医の歯科医院の往診もある。かかりつけ医には事前に健康状態や生活状況を連絡し、連携を図るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がスタッフ間の状態報告や気になることを迅速に判断し、主治医への連絡調整を行い、迅速に対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室との連携を図り、状態把握や情報収集を行い退院の支援を行う。 また、退院に向けてカンファレンスの計画を迅速に行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時やカンファレンスにおいて、ご家族と本人の話し合いの場を持ちながら、どのような人生の終焉を迎えたいか、また迎えさせたいかを傾聴し、スタッフ間での情報の共有を行っている。 エンディングノートの作成や重度化・看取りの中で、ご家族に協力して頂き事業所でできることを意識してチームケアについて考え実践できる。	重度化及び看取り指針に基づき、看取りを行ってきた実績はある。医療的な対応が必要な場合には家族や関係者と話し合い、医療的措置が可能な系列の施設へ移動となる場合もある。緊急時の対応においても、系列の施設や宿直者と連携がとれる体制づくりを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の判断は、日中は看護師を中心とし、看護師の適正な判断で出勤者と迅速に対応するように指導している。(報告・連絡・相談の徹底) 夜間においては、夜勤者が、宿直者や管理者に連絡を行う。日中・夜間ともに迅速な対応が行えるように指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。地域との協力体制も整えている。地域の方々との避難訓練をすることで認知症を患っている方への理解と協力体制を築きたい。	年2回の避難訓練(内1回は消防署参加)と、3カ月毎の通報訓練を行っている。大雨による近くの道路の冠水や短時間ではあるが停電の発生もみられ、災害対策への意識が高まっている。備蓄品としてお米を多量に保管できる貯蔵庫も設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護に留意し、本人の尊厳を損なうことのないようにスタッフ間で声掛けを行いながら対応している。職員会議で身体拘束廃止委員会にて身体拘束・虐待について事例を基に勉強会を実施。身体拘束・虐待について学んだことを活かせるケアを考えられる。	排泄や入浴時などプライバシーの配慮が求められる介護場面では、声掛けの仕方を工夫したり、同性介護を求める場合には介護者を変更するなどの対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者からでた要望や訴えは、話を傾聴し、早急に受け入れる。職員間で情報収集したことを共有し、利用者の自己決定をできるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々が主体であることを意識して話を傾聴する。その人らしさや尊厳を踏まえて、その方に寄り添える介護ができる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で衣類の選択や、お化粧品など、本人の意向を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嫌いな献立は、代替え食を準備する。職員の配膳時や談笑を交えながら会食を行い、できる方には片付けを手伝ってもらっている。現在は、コロナウイルス感染症の影響にて利用者と一緒に食事は行っていない。	系列事業所で作られた食事をホームで盛り付けし、提供している。朝食はパンとご飯の選択ができる。ホームで手作りの料理を提供することや、お弁当を作ってもらい公園に行くこともある。おやつを手作りすることも多く、入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好を大切に、水分や補食を行っている。記録を行い、水分量の少ない方には本人の代替品を提供する。また、食事形態も状況に応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその方にあった支援を行いながら、口腔ケアを行っている。お茶でのうがいを促すこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄状況を、その都度記録し、職員間での情報の共有を行い、チームケアを行っている。排泄の質の向上を認識し、介護用品の検討も行っている。(布製品やパッドを適切に選択する) トイレが頻回な方も数名おられるので気分転換を図ることでトイレに対しての意識を軽減できるよう実践できる。	排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄支援を基本としている。使用する排泄用品も個々の状態に応じて使い分けを行っている。訴えの頻回な入居者には、声掛けの仕方を工夫したり、気分転換を図るようにして対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質や乳製品、水分摂取を考慮する。また、体操や歩行訓練、腹部のマッサージなど、一人ひとりにあった支援を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴の実施。排泄で失敗があった時など対応を行っている。入浴の時間に関しても、ご利用者の状況に応じて支援を実施している。	午前中に入浴時間を設定しているが、「午後が良い」という希望や排泄の関係で緊急に入浴する場合など柔軟に対応している。浴槽に「ひとりでゆっくりつかりたい」という入居者に対しては、扉の外で待機し、見守るなど個々にそった支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ夜間に良眠していただけるよう、日中の余暇活動の対策を個人の嗜好に配慮しながら過ごしていただいている。また、眠くなるまでは、職員と一緒に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援に関しては、職員一人ひとりに慎重な対応を行うように促している。また、状況によっては看護師より主治医へ連絡を行い、受診や調整の指示を受けて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに満足感や喜びのある生活をしているという認識を持っていただけるように支援を促している。役に立っているという自信に繋がり、役割を持てることで生活にも張り合いや充実感を持っていただけるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は職員間で連携を図り、散歩やドライブなどを実施している。家族との外出や本人のご意向での故郷訪問、施設行事やサロンへの参加など協力をいただいている。現状、コロナウイルス感染症の影響にて困難な状況である。外出支援をすることで帰宅願望の訴えをされる利用者の方もいる。職員間で共有している情報を話し合い、その人にあった支援を考えることができる。	外出が難しい状況も多少緩和されているため、お弁当を持って公園に行くことやお花見に行くことも出来ている。ホームの前庭の花壇の手入れをすることもあり、徐々に外にでる機会も増えてきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方は少ないが、持っていないと不安な方は、その都度、買い物の支援や飲み物の購入の支援を行っている。また、施設の立替で欲しい物の買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話は掛けていただいたり、職員がご本人のご意向をお伝えしている。手紙に関しては、施設の向かいにある郵便局へ職員と同行して対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に臭いがなく、明るい空間が保てるように配慮している。時代感のある嫁入り箆笥をリビングに設置、できるだけ落ち着いた雰囲気与生活していたできるように配慮している。壁などの飾りつけや貼り絵などで季節感を採り入れている。その月(季節)に合った作品を利用者と一緒に作成している。利用者の方々の意見を反映させ作業療法的な作品づくりを実践できる。	季節感のある壁画や工夫をこらした創作物がたくさん飾られ、ホームの温かさが感じられる。食事のテーブルやソファもゆったりとしたサイズで落ち着いて過ごせる環境である。空気清浄器の設置や定期的な換気を行い、感染症対応も継続して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや居室での利用者間の会話は、一人ひとりの意向で対応している。リビングのソファやテーブルのレイアウトにも配慮し対応を行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の気に入られた品物(思い出の品物)は、身の回りに持ってきていただいている。一人ひとりのご意向を把握し、一緒に配置や模様替えを行い対応する。	居室はリビングに面しており、居室に居ても人の動きが気配として感じられる安心感があるように思われる。写真や使い慣れた物を身近におき、ベッドなどの配置も使いやすいように希望を聞いて行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒や自然災害のリスクを常に配慮し、安全に生活をしていただけるように職員が認識して支援できるように環境面(ソフト面・ハード面)を整える。事務所のボードを活用したり、申し送りでの情報の共有を行い自立支援を行っている。		